

地場産業の芸術化と地域遺産の管理を考慮した道の駅の基本構想

岩手大学 フェロー 安藤 昭 岩手大学 学生員 ○泉山 翔平
岩手大学 正会員 赤谷 隆一 岩手大学 学生員 盛川 聖峰 岩手大学 正会員 南 正昭

1. はじめに

東山町は名勝猊鼻溪が有名であり、砂鉄川や束稲山など自然豊かな町である。また豊富な石灰石が産出することから第2次産業が盛んな町でもある。

しかし、東西に縦断する県道19号線では多くの通過交通や工場からのトラック・観光バスなどの大型車交通があり、安全に運転できる交通環境の整備が求められている。また、猊鼻溪の駐車場の不足問題、さらには平泉の世界遺産登録による観光客受け入れの問題などが挙げられている。

また、平成17年9月に一関市、花巻市、大東町、千厩町、東山町、室根村、川崎村の7市町村による大型合併があり、新「一関市」として歩み始めている。その中で東山町として個性的で持続可能な町づくりをする必要がある。そのためには地場産業の芸術化を進め、町に点在する多くの地域遺産を管理できる町をつくっていく必要がある。

そこで本研究は、一関市東山町を対象として、中心市街地のcore（核）づくりの一手段として『エコミュージアム』の理念を取り入れた、創造的で持続可能な「道の駅」を構想することを本研究の目的とする。

2. 道の駅のデザインコンセプト

地場産業の芸術化と地域遺産の活用のための

拠点の育成

- 道の駅の3つの基本機能の充実
- 地場産業の芸術化のための拠点づくり
- エコミュージアムの理念を用いた地域遺産の活用

① 道の駅の3つの基本機能の充実

道の駅が有する「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」の3つの基本機能の充実を図り、地域とともに個性豊かなにぎわいの場の創出を目指すとともに、駐車場などのインフラの整備も進める。

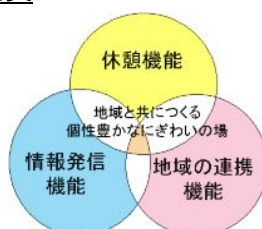


図-1 道の駅の基本機能

② 地場産業の芸術化のための拠点づくり

地場産業・地域遺産に芸術品として付加価値を加えること（ブランド化）で、町の魅力の強化・国内外への発信の強化を進める。

③ エコミュージアムの理念を用いた地域遺産の活用

町に点在する地域遺産（観光資源等）を再認識し、現地保存・育成・展示する上で「地球全体が博物館になる」という考えの『エコミュージアム』の理念を用いて、町の魅力発信を進める。

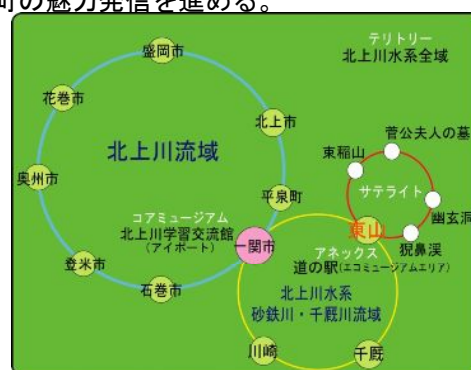


図-2 エコミュージアムの構造

以上のデザインコンセプトと基本方針を元に道の駅の導入機能・施設、さらには敷地基本構想を計画する。

3. 導入機能・施設

① 休憩機能

様々なニーズに対応した駐車場、24時間利用可能なトイレ、バス・タクシー等の利用促進を促すロータリーを整備する。

② 情報発信機能

渋滞箇所などの情報を提供する道路情報案内施設、町の良さ・観光地等の情報を提供する地域遺産情報案内施設、洪水・地震等の災害情報を発信する災害情報提供施設を整備する。

③ 地域連携機能

- 東山町の良さ・魅力を発信する施設

➢ 歴史・文化施設

猊鼻溪伝承館や東山和紙博物館、賢治と石灰の資料館等

➢ 風景鑑賞施設

猊鼻溪舟下り・蟬時雨や固定堰の音景観等

➤ 販売施設

農産品販売施設・民芸品販売施設・ミュージアムショップ 等

➤ 飲食施設

地産地消を進めたレストランやオープンカフェ 等

● 道の駅としての魅力となる施設

➤ 体験施設

東山和紙の紙すき体験、紫雲石硯での習字・水墨画学習体験、狛鼻溪舟下りの船頭体験、砂鉄川への築場の造成による鮎捕り体験 等

④エコミュージアムの本部機能

町に点在する地域遺産を地域住民自らの手で「保存」「育成」「展示」を行う上で、核となり地域住民の働きの手助けとなるエコミュージアムの本部機能を持つ施設「アネックス」を整備する。

4. 敷地基本計画

道の駅の敷地は、東山町長坂地区狛鼻溪前からJR狛鼻溪駅前までの範囲とし、「基本機能エリア」「商店街エリア」「ミュージアムエリア」の3つにエリアからなる道の駅を構想する。

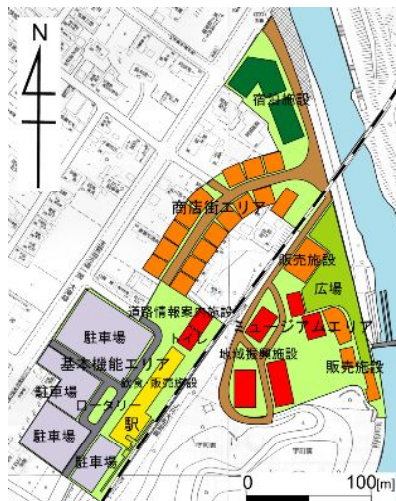


図-3 道の駅の敷地全体図

全体のデザインは、史的な雰囲気発信する和風のデザインを基調とする。

① 基本機能エリア

道の駅の「休憩機能」「情報発信機能」の機能を受け持つ、道の駅の基本となるエリアとする。また、「地域連携機能」の販売・飲食施設を設置する。

② 商店街エリア

既存商店街に対して、市の仲介のもと、敷地の貸与を行うことで、第2店舗の誘致を積極的に進めた活気の溢れる街路エリアとする。街路は歩行者専用で和風な街路を形成する。



図-4 商店街エリアパース

③ ミュージアムエリア

エコミュージアムの「本部機能」と道の駅の「地域連携機能」を受け持つ、「見る・触れる・感じる」道の駅を楽しむエリアとする。川沿いに堰や砂鉄川を楽しむ歩行者専用広場やオープンカフェ、さらには歴史・文化施設や体験施設、風景鑑賞施設や販売・飲食施設を配置する。



図-5 ミュージアムエリアパース



図-6 道の駅全体パース

おわりに

本研究は2007年4月から2008年2月にかけて、計6回に及ぶ、地域住民・行政（県・市）・大学での検討会を通してまとめ上げたものである。